

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社ウインドワード		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地1F		
自己評価作成日	令和5年7月14日	評価結果市町村受理日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyouvoCd=2170103705-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyouvoCd=2170103705-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の前が梅林公園で、利用者の方が散歩に行くのにも疲れな距離です。歩道も綺麗に舗装され車椅子も使用しやすくなりました。四季の移り変わりも肌で感じる事ができ周囲の環境もとても良いです。又職員も定着しており落ち着いています。職員の資格取得者も増えレベルアップ出来るよう日々取り組んでいる。どのような利用者の方が入所されても対応できる技術を持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、事業所前に広がる梅林公園の散策や、様々な行事を通して季節を感じながら穏やかに過ごしている。職員が利用者の好みや希望を反映させた食事を手作りしている。食材の下ごしらえから片付けまで、役割を持って動く人や作業を見ている人もあり、家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。医療機関との協力体制のもと、利用者・家族には細やかな支援を行い、殆どの利用者が事業所で看取り期を迎えている。管理者は、職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握し、ワーク・ライフ・バランスに配慮しながら職場環境の整備、教育の充実にも取り組んでおり、職員の定着率は高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを忘れないように玄関に掲げてある。全職員と共有し理念を実践出来ていると感じている。	管理者は、理念に基づいた職員像を示しながら、職員と共にケアに臨み、指導や教育に取り組んでいる。また、利用者への言葉がけや関わり方、技術について気づいたことは、その場で職員とともに振り返り、指導を行い理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を持てるよう、自治会に入会し、自治会の行事に利用者の方の状態に合わせながら参加。利用者の方が無理な場合は職員だけでも可能な限り参加できるように心掛けている。	自治会に加入しているが、コロナ感染症の影響により休止している活動も多い。地域の消防訓練、神社の掃除などに職員が参加して地域との交流を図っている。状況を見ながら、利用者と共に自治会活動の参加を再開するとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の個々の状況やケア方法を説明させて頂きながらサービスの向上に活かしている。	8月までは書面会議にて行い、議事録に意見を同封して配布し、得られた意見や助言をサービス向上に活かしている。地域包括支援センターからは体操の資料提供があり、民生委員の訪問も継続して受けている。9月から、対面での運営推進会議を行うとしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を毎回送らせて頂き把握して頂いている。又電話や市役所に直接行くなどし、相談させて頂いている。	運営推進会議には、市町村担当者の参加を得ている。管理者も電話で問い合わせたり、直接、窓口に出向いて報告や相談をするなど、協力関係を築いている。社協とは空室の連絡や情報交換を密に交わし、協力体制を整えている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、全職員が理解している。夜間は防犯上の事もある為玄関施錠をしているが昼夜問わず玄関には人の出入りが分かるようセンサーを付けている。昼間は施錠していない為面会時インターホンを押さなくても家に入るように入出入りが出来る。3カ月に1回に身体拘束適正化委員会開催。	3カ月に1回開催する身体拘束適正化委員会で、拘束や虐待、事故・ヒヤリハットなどの研修を組み合わせながら、正しく学んでいる。全職員が、身体拘束マニュアルを確認しながら日々のケアを振り返り、身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、全職員が常に心掛けている。言葉遣い、対応の仕方、身体に触れる時などに注意するようにしている。会議でも虐待防止について3カ月1回話し合いを行っている。	虐待防止についても、身体拘束適正化委員会と合わせて開催し、ケアの振り返りを行っている。どのようなことが虐待となるかを具体的に挙げて話し合い、管理者は、不適切ケアにもなり得るグレーゾーンについても、その都度、注意を払いながら虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員理解している。成年後見人は利用している方もみえ今後も必要であれば相談にのれる準備もできてる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に添い説明を行い質問等を受けながら理解を得ている。又改正の際は電話で説明(面会時に説明)メールで説明させて頂き文章を郵送、来訪時に再度説明を行い理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の意見、要望は日常会話から拾えるよう心掛けている。又家族の方に関しては来訪時やメールなどで要望、意見を聞くようにしている。玄関に相談箱の設置もしている。外部への相談窓口の連絡先を重要事項説明書に記載し表せるようにしている。	家族とは面会時だけでなく、ショートメッセージ、メール、LINEなどを活用し、利用者の様子を写真添付で伝えるなど、意見や要望を得られるよう努めている。食事料金の値上げなどの契約内容の変更は、事前にSNS等で知らせ、その後、書類を送付し承諾を得るなど適切な運営に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度会議を開催し、サービスの在り方について議論すると共に職員の個々の気持ちを聞くようにしている。話しづらい事などは個人的に話を聞く機会を設けている。又半年に一回面談を行い反映に繋げるよう努めている。	個人面談を定期的実施している。管理者は職員の様子から、必要性を感じた時には個別に話を聞いている。また、職員と共に日々のケアを行う中で、意見や要望、利用者の状態を把握する事も多く、それらを利用者サービスと運営に反映させている。職員も働きやすいと評価している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者、管理者は同一人物であり、日々現場と一緒に仕事をしている為把握している。個々の生活に合った仕事のスタイルで働けるよう日々配慮している。	管理者は、職員と共にワーク・ライフ・バランスを考えながら、働きやすい職場作りに取り組んでいる。職員の希望や子どもの病気など、急な休みにも対応し、安心して働ける環境を整えており、若い職員も定着している。センサーマットを使用し、夜勤者の負担軽減にも取り組んでいる。	管理者は、職員が長く安定して働けるよう個々のワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境作りに取り組んでいる。職員もまた、心にゆとりを持って、いきいきとケアに取り組んでいる。今後も、安定した職場環境維持に期待したい。
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員には、それに必要とする費用を事業所が負担している。又個々の状況に応じレベルアップ出来るよう法人内での研修と共に現場で学べるよう努めている。	管理者は、職員の希望や状況をみながら資格取得を勧め、受講料の援助をしている。リモート研修は勤務中に交代で受講できるよう支援している。管理者は、日々のケアを職員と行いながら介護技術や支援方法、接遇についての考え方など、直接、現場で教育を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は、他との交流はないが、相談し合える相手はいる。他のホームと交流が持てるよう努力を続けていく。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家と職員が思ってくれるよう出勤時は「ただいま」帰宅時には「いってきます」を日常から使っている。今では定着し利用者の方が「おかえり」「行ってらっしゃい」と声を掛けてくださり、良い関係づくりが出来ている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能であれば日常生活の中で本人さんとコミュニケーションを取りながら本人の希望に添った暮らしが出来るよう努め、困難な方の場合は、表情、仕草など、選択肢を提示しながら本人本位に添えるよう努めている。	日々の関わりの中で、思いや意向を聴き、対応するよう努めている。意思表示が困難な場合は、利用者の状況に応じて、本人が答えやすい問い方を工夫し、少しでも意向を引き出せるよう工夫している。家族からも情報を得て、ケアに反映させている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1度の会議で職員、ケアマネと話し合いを行い、話し合いの結果を家族の方に伝え意見、アイデアを聞き相談させて頂きながらケア計画を作成している。	管理者はケアマネジャーと協働して、毎月、職員、協力医、看護師から得た意見と利用者・家族の意向を反映させて、介護計画の作成及び修正を行っている。また、サービス担当者会議には半数の家族が参加しており、意見を介護計画に反映させている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録を出来る限り細かく残している。それを全職員が把握し対応できるようにしている。記録や職員が感じた事を元に話し合いを行い実践に活かすと共に計画書の見直しにも活かしている。記録については家族の方限定で見ることが出来ます。	利用者一人ひとりの介護計画、介護記録、薬剤関係等の書類は、1冊のファイルにまとめられている。全職員が、出勤時に介護計画や利用者の現状、特記事項などを把握した上でケアに入るなど、各記録が個々のケアに有効に活用されている。	介護記録には、利用者の日々の状況とケア等が細やかに記載されているが、記入者の署名がない。記録時には必ず名前を書くことを習慣とし、実践や見直しに活かせる記録作りに期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人さんの日々の状況に合わせ柔軟なサービスが出来るよう努めている。状況に合わせて居室の移動が必要な場合なども対応可能。	ボランティア等の受け入れは難しい為、利用者が参加できる祭りや花火大会などのイベントに出かけ、地域住民と触れ合える機会を作っている。現在は、事業所と家族の支援を中心にして利用者の生活を支えることが多い。	

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センター、民生委員、生活福祉課の方などと交流はあるが、地域資源の活用は出来ていない。地域のイベントなどは参加できるように努めている。秋葉さんのお参りや消防、災害のくんれんなど。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう支援している。家族の方にも協力して頂きながら対応している。施設の契約医院や整形、歯科、眼科など本人さん家族の方が納得されている病院さんを外来や往診で願っている。	利用者と家族に説明し同意を得て、24時間の往診対応が可能な協力医を選択してもらっている。希望がある場合は、従前のかかりつけ医を継続している。整形や歯科などの往診を利用する利用者もある。通院時同行は家族に依頼しているが、困難時は管理者が代行している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、入院先に利用者の方の今までの状況を説明すると共に入院先の医師や看護師の方、ご家族に経過を聞きながら、退院時受け入れが可能か相談を重ね、可能な場合は退院後も病院との関係を築きながら支援している。	入院時には申し送りシートを準備し、情報提供を行っている。退院後は、利用者がスムーズに元の生活に戻れるよう医療機関と連携を図っている。事業所が退院後の受け入れを行っている事で、利用者と家族は安心して過ごせている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、本人、家族の方の思いを聞くと共に重度化、終末期を迎えられた場合、本人、家族、主治医、職員と話し合いを常に行い、状況を共有し、より良い支援が出来るようつとめている。	契約時に説明をし、協力医と連携しながら、ほとんどの利用者が事業所で看取り期を迎えている。看取り後には職員とともに振り返りを行い、次のケアに活かしている。3ヶ月に1回の会議開催時に看取りケアマニュアルを再確認し、看取りについての研修も実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議で定期的に、急変時、事故発生時の対応について指導している。連絡体制も整えている。今後も実践に活かせるよう訓練を重ねていく。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は勿論、他の災害に備え定期的に訓練シミュレーションを行っている。避難のタイミングや夜間時の対応、連絡手順の把握などを行っている。又何かの時には手を貸して頂けるよう地域へ願っている。	水害、地震、火事などの想定訓練を定期的に行っている。避難誘導方法、避難経路と避難場所の確認、消火器使用方法、携帯する各利用者用リュックサックの点検などを行っている。地域の避難訓練には職員が参加し、近隣住民にも声をかけて協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その方に合った対応を心掛けている。トイレやオムツ交換の際、周りに分からないよう配慮し誘導している。(本人さんが訴えた場合は別)名前の呼び方なども本人さんの希望に合わせ呼んでいる。	契約時に、利用者の呼称について、本人に希望の呼び方を聞いている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、入浴時は希望があれば同性介助を行っている。トイレへの誘導やおむつ交換などの排泄ケアを行う際には、プライバシーに配慮して他利用者に気づかれないう、さり気なく誘導している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにも、本人さんの希望、要望を聞き無理時するのではなく自分で選択して頂き自分らしく生活できるよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は決まっているが、個々の生活のペースに合わせて日々過ごして頂いている。又利用者の方の希望に添えるよう日々努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を作ったり、おやつを用意したり、準備や片付けを積極的に手伝って頂いている。	食事は利用者の好みや希望を反映しながら、三食を介護職員又は調理専属職員が手作りしている。食事時間が近づくと利用者は食卓で過ごし、準備や片付けの様子を見ていたり、出来る事で職員を手伝う人もある。行事食や旬のメニューは利用者の楽しみとなっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録は勿論、利用者の方の体調に合わせ、水分量のチェックも行っている。食事は常食、刻み、ミキサー食、水分のトロミなど、利用者の状態に合わせてながら安心して摂取出来るよう配慮している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせ、職員が見守りや仕上げ磨きなどを行っている。	朝晩の口腔ケアや義歯の手入れは全員で行い、昼は希望者が行っている。利用者が自分で行なう事を基本に支援し、状況に応じて職員が確認や仕上げ磨きを行っている。歯科医のチェックを定期的に受けている利用者もある。	

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターン身体の状態を把握しその方に合った支援を行っている。失禁の多い方は、声掛けし失禁が減らせるよう対応。夜間など身体の状態に合わせてポータブルを使用するなど自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間は決まっているが、毎日入浴は行っている為、お風呂が好きな方は毎日入られる。湯船に入りたくない方などシャワー浴して頂くなど個々に合わせ支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて居室のベッドで休んで頂くなど対応している。居室の温度、湿度調整を行い気持ちよく睡眠がとれるよう配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明を聞き職員内で共有したうえで服薬の見守り、介助を行っている。状態に変化が見られた時は主治医に連絡し支持をもらっている。	薬剤師の定期的な来所があり、指導を得たり相談をしている。とろみをつけるなど、利用者の状況に応じた内服方法で支援している。その日の服薬担当職員を決め、日付、名前、薬剤の確認を行っており、誤薬などの事故はない。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯たたみ、食事の用意片付けなどお手伝いして頂いている。又個々のやりたい事趣味などを取り入れながら日々過ごしていただいている。縫物や散歩、本や新聞を見るなど、本人さんの希望に添った支援をしている。	利用者に希望を聞き、やりたいことをやりたい時に出来るよう支援している。作品作りで細かく紙を千切ったり、雑巾縫いや掃除、洗濯たたみ、食事の手伝いなど、可能な限り役割りを持って、楽しみながら出来るよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園の散歩、バーベキュー流しそうめん、秋涼み夕食(現在は控えている)花火大会、地域のイベントの参加などの支援を行っている。家族の方と出かけられるかたもみえる。	感染対策をした上で、地域のイベントに参加したり、毎日、事業所前の公園を散策している。また、庭で花火を楽しんだり、野菜の手入れなどで外気に触れられるよう工夫している。雨天の場合は、廊下を歩いている。家族の協力を得て外出することもある。	

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持していない。しまった場所が分からない、捕られたとパニックに起こされたり、ご家族の希望などで所持していない。外出時は、支払いなど利用者の方をお願いするなどの支援は行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙をやり取りしている。身体的にむりなかななどは、写真や動画を送っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りを飾っている。庭には野菜や花を植え季節を感じ取れるよう配慮している。又居心地よく過ごして頂く為に湿度、温度、光、音、臭気、清潔、喚起に気を付けている。	事業所前の公園や庭の畑から四季を感じることができる。共用部分や居室には、天井まである大きな窓があり、明るく換気も良く、適度な室温が保たれ過ごしやすい。居間の寛げるソファや、キッチンと食卓の配置など、家庭的な構造となっており落ち着いた雰囲気となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方がほとんどだが、居間にもソファテレビを置き利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。毎日、新聞や雑誌も自由に読めるよう配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方に、出来る限り新しいものではなく、これまで使い慣れた親しんだ物を持参して頂くようお願いし、少しでも今の生活と大きな変化が無いように出来るよう配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場やトイレには解り易いように目印をつけている。施設の廊下は、一直線の為利用者の方は職員の存在が解り易く職員も利用者の方の行動が見やすく安心です。		